

ポスターセッション

「院生（修士1年）の研究テーマ」

1年次生16名の研究テーマについてポスターセッションを行い、各院生が自身の研究テーマについて説明した。

	院生氏名	研究テーマ
学習 デザイン ・ 現職	① 上谷 由喜	論理的に表現する力を育む英語の授業改善に関する一考察
	② 坂上 智子	英語の学びをつなぎ、深める指導の提案 —小中連携を通して—
	③ 寺澤 幸平	高校化学における粒子理解を深める教材開発と指導の工夫 —物質質量 (mol) の理解に向けて—
	④ 平石友吏江	自分自身の未来に期待する子どもの育成 —一個の願いを真摯に受け止め支援・実践する活動を通して—
	⑤ 藤田真理子	一人一人が自己存在感をもち、互いに尊重し合う学級集団づくり —対話における言語活動を通して—
学習 デザイン ・ 学卒	① 奥澤 敦子	主体的に学ぶ生徒の育成を目指して —高等学校国語科古典Bの実践より—
	② 中川 幸樹	数学科における深い学びを促す教授学的状況のデザイン
	③ 中出 涼菜	国語科における子どもの見方・考え方を引き出す授業 —説明文を中心に—
	④ 藤本 祥平	小学校社会科における探求型の授業デザイン
	⑤ 細川 雄大	楽しく意欲的に取り組むことのできる中学社会科授業実践 —資料活用力を基盤として—
	⑥ 山本 理沙	運動の楽しさを味わう体育科授業づくり
学校 マネジメント ・ 現職	① 小田 朋一	対話と協働を生み出すための研修コーディネーターの役割について —生徒指導に関する校内研修・OJTのコーディネートを通して—
	② 竹内里保香	若手育成グループ研修を通じたミドルリーダーの変容 —ミドルリーダーに関わる協働態勢構築を中心に—
	③ 松本 学	チームリーダーに求められるマネジメント力の向上 —各課主任のマネジメント学習会の組織実践を通して—
	④ 水島美佳穂	カリキュラム・マネジメントにおける教職員のチーム学習実践 —総合的な探求の時間の授業打合せを通して—
	⑤ 脇田 潤	関係の質の向上から始めるチームの協働体制の構築 —ボトムアップによる業務改善の取り組みを通して—

論理的に表現する力を育む英語の授業改善に関する一考察

学習デザインコース 上谷 由喜

研究の背景

新学習指導要領における外国語科の目標の捉え方

- 資質・能力の3つの柱
- ・知識・技能
- ・**思考力・判断力・表現力等**
- ・学びに向かう力、人間性等
- その他のキーワード
- ・見方・考え方
- ・主体的・対話的で深い学び

生徒の実態

- 英文の暗唱
- 短文の列記

△筋道を立てて一貫性のある文章でまとめて書く

強化したい技能

書くこと ↔ 話すこと

研究の仮説

英語科の中で育てる論理的思考力

カプランの言語別思考回路の図

CULTURAL THOUGHT PATTERNS IN INTER-CULTURAL EDUCATION

English Semitic Oriental Romance Russian

英語科の授業の中で、英語特有のストレート型の文章展開の方法を捉えさせれば、論理的に表現する力を育むことが出来るのではないかと？

研究の目的

言語活動のプロセスと思考ツールの関係

Output 話す・書く

Intake **思考・判断**

Input 聞く・読む

思考スキル

- 創造
- 評価
- 分析
- 応用
- 理解
- 記憶

思考ツール

- ・マッピング
- ・整理・分類シート
- ・構成シート
- ・データチャートなど

*自己評価、相互評価を伴う

Input → Intake → Output のプロセスの中で、Intakeの段階が思考・判断の場面であり、本研究では生徒が「思考ツール」を活用し、必要な「思考スキル」を向上させることで、より深い思考と適切な判断ができるようになり、論理的な文章を書いたり話したりすることができることを検証する。

研究の方法

教科書を用いた指導プログラム案

Read and Think

Speaking: Story-telling, Role-play, 自分の意見 など

Reading: 教科書処理, TF/OA, 音読, 要約 など

Writing: フォトコラージュ, 自分の意見 など

Listening: キーワード・テーマ など

Listening & Speaking: キーワード・テーマ, フォトコラージュ, インタラクティブ など

マッピング・整理・分類シート, データチャート, 構成シート, ポスター など

個人ペア, 個人ペア, ペア

土台(単語群), セッション, 定型の英問英答や即興のsmall talk, 技能・手立て, ツール, 学習形態

「聞く」「読む」活動の中で、情報を整理するための思考ツールの使用

①トピックセンテンスのキーワードを中心に、関連キーワードをつなげる

キーワード

②段落ごとにまとめる

キーワード ← 大きい情報、トピック

細かい情報

「書く」活動の中で、手順に応じた思考ツールの使用

① ビア・フィードバック

② ビア・フィードバック

生徒と共に作るルーブリックの活用【論理的思考力(内容)に関わるルーブリック(前)】

評価の観点	①	②	③	④
内容の理解	ほとんどできていない	一部できているが理解が浅い	理解している	理解が深い
論理・構造	文章・キーワードはほとんど書かれていない	文章・キーワードは書かれているが、つながりが弱い	文章・キーワードは書かれているが、つながりが強い	文章・キーワードは書かれているが、つながりが非常に強い
表現	ほとんど書かれていない	一部書かれているが、表現が単純	表現が豊か	表現が非常に豊か
読者の理解(明確さ)	ほとんど書かれていない	一部書かれているが、読者の理解が浅い	読者の理解が深い	読者の理解が非常に深い
読者の興味(興味)	ほとんど書かれていない	一部書かれているが、読者の興味を引かない	読者の興味を引く	読者の興味を非常に引く

「話す」活動において、メモやアウトラインを用いた発表

整理分類シート

生徒と共に作るルーブリックの活用【話すことに関わるルーブリック(前)】

評価の観点	C	B (CLEAR)	A
準備	発表前日までに、発表の準備ができていない	発表前日までに、発表の準備ができており、発表の準備が整っている	発表前日までに、発表の準備ができており、発表の準備が非常に整っている
内容	発表の目的や内容を説明できていない	発表の目的や内容を説明できている	発表の目的や内容を説明できているが、内容が豊富
Visual aids	発表の目的や内容を説明できていない	発表の目的や内容を説明できている	発表の目的や内容を説明できているが、Visual aidsが効果的
発表態度	発表の目的や内容を説明できていない	発表の目的や内容を説明できている	発表の目的や内容を説明できているが、発表態度がよい

思考ツールは、使用目的や内容に応じて変えます。

何が有効に働き、何がつまずきになったのかを検証します。

研究の検証方法

年間計画(案)

検証方法	2~3月	4月~7月	8月	9月~11月	12月
生徒アンケート	アンケート作成 小テスト アンケート実施 分析	4月当分のアンケート実施 7月アンケート実施	11月アンケート実施		
毎時間の振り返り	教材研究	授業の授業に	修正・教材研究		
思考ツールの分析	教材研究(思考ツールの作成)	思考ツールを用いた授業において実施(Unitごと)に分析	修正・教材研究		
授業記録VIR		各Unit又はPresentationの後に実施			
パフォーマンステスト	教材研究と課題作成 ルーブリックの作成	各Unit又はPresentationの後に実施			

「英語の学びをつなぎ、深める指導の提案」

～小中連携を通して～

学習デザインコース1年 坂上 智子

1. なぜこの研究テーマか

- ・小学校外国語活動・外国語科の導入→中学校へ
- ・小学校と中学校の教員間のギャップ
- ・6小学校それぞれの学びがある (学びの土壌が違う)

↓

★中学校で5領域の力をどうやって伸ばすか？ そのためには、

- ①現状を知り、(どんな土壌を作ってきたのか?)
- ②土壌を整え、(人をつなぐ=小中連携組織作り)
- ③適切な肥料や水を与えていくことで、(=学びをつなぐ、深める (授業改善))

学びをつなぐことが必要!

1 研究の背景

GAP!

専門ではないのに...
指導が難しい...
他の小学校や、中学校では
どんな指導をしている?

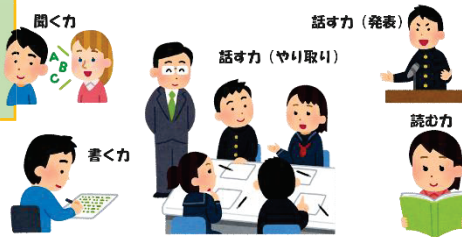
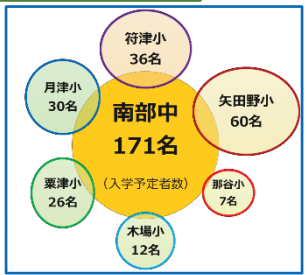
子供達のレベルの差が昔
より大きいな...
小学校ではどんなことを
学んできたんだろう?

ALUにまかせきり...

小学校英語科
担当教員

小学校の教材も
よく知らないな...

中学校英語科
担当教員



中学校英語科で求められる力 (5領域)
(中学校新学習指導要領より)

平成30年度小松南部地区
小学校6年生在籍数

中学校英語科で求められている
**5領域の力を、
つけていけるのではないかな?**

2. 研究の概要

2 研究の概要
①各小学校でどんな土壌を作ってきたのかを知る (準備)

- ・アンケート調査 (小6児童, 英語担当教員対象)
- ・出前授業 (小6対象, 指導者としての工夫を見せる)
- ・何をどのように教えているのか? (カリキュラム)
- ・何をどのように評価しているのか? (評価の実態)

② 小学校をできるだけバランスのよい培地にするための基礎作り
=人をつなぐ (小中連携組織作り)

- ・メーリングリストの活用 ・話し合う (英語部会を活用)
- ・教材を知る

・英語部会を立ち上げ
授業のビデオを視聴して
意見交換をしたり、教材・
教具の使い方をシェア
リングしたりして、でき
るだけバランスのよい培
地づくりを行う。
・シェアリングや質問など
は、メーリングリストも活
用する。

③ 適切な肥料や水を与え英語の5技能を伸ばす
=学びをつなぐ、深める (授業改善)

- ・「コミュニケーションを行う場面」の設定
- ・やり取りの場面の工夫
- ・ICTの活用 (発表, 語彙習得など)
- ・日常生活における興味・関心のある
事柄との関連づけの工夫
- ・「話す・聞く」中心から「読む・書く」へ
のつながり、広がり

- ・定期的なアンケート調査
- ・評価の工夫 (授業の中で行えるもの)
- ・子供自身が作るルーブリックを用いたパフォーマンス評価
- ・子供の相互評価
- ・自己評価 (タブレットの録画機能などを用いる)
- ・ポートフォリオ
- ・学力テスト, 定期テストの改善と分析
→これらで生徒の変容を観察, 検証する

3. 研究計画

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アンケート	小学校で		1回目			2回目		3回目		4回目				
テスト			レディネス	1中間		1期末	確認		2中間		2期末	確認	3期末	
教科書 (中)			0~1	2	3~4	4~		5	6~7	8~9	9~	10	11	Pre3, まとめ
教科書 (小)	8(8)	9	1(4) 自己紹介		3, 4 人紹介			1(6) 何が好き	3 Who?			4(3) can	5 思い出	
研究	小学校参観, 出前授業 小学校のデータ収集と分析		・授業研究	・計画と実践	・テストの分析	・アンケートの集計と分析	・研修会の企画・立案	・分析と見直し	・見直し案の作成	・授業研究と実践	・実践記録のまとめ	・アンケートの集計と分析	・研修会の実施	修了報告書 作成 発表

・4月新入生については、
学びの土壌が整っていない
現状を踏まえ、4月当初に
レディネステスト, アンケ
ート調査を行い、学習状
況を把握した上で授業を
行う。
・夏に英語部会研修会を
もち、模擬授業と整理会
を行うことで、研鑽の場
とする。

高校化学における粒子理解を深める教材開発と指導の工夫 ～物質質量 (mol) の理解に向けて～

学習デザインコース 寺澤 幸平

物質質量 (mol) とは？

- SI 単位系の基本単位の1つ。
- 化学反応の量的関係の理解
- 目に見えない粒子の振る舞いを知ることができる

SI 単位系基本単位

長さ	m
質量	kg
時間	s
電流	A
温度	K
物質質量	mol
光度	cd

化学的見方の鍵



しかし・・・

理解の困難さの原因

- ① 生徒のもつ説明の理論と科学の説明の理論のずれ。
- ② モル概念を構成する概念の多様性。

例) 慣性の法則

日常体験



自然に止まる

科学の理論



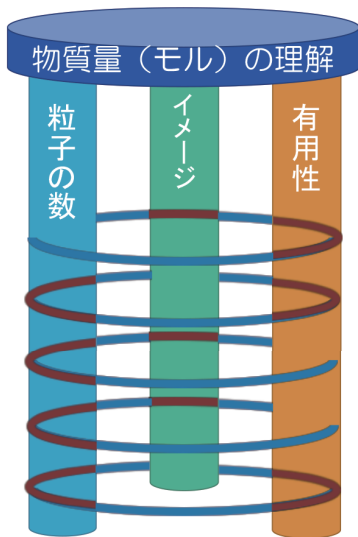
動き続ける

モデル化して体験

科学の理論の理解が進む

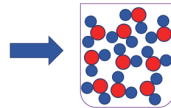
研究目的

高等学校「化学基礎」、物質質量 (mol) の単元において、粒子モデルによる「実体験」を取り入れた単元構成を考案し、授業実践を行い「実体験」が物質質量 (mol) の理解につながるかを検証する。



例) 質量 (g) で考えると・・・

水素原子 H の質量から、水 H₂O を作るために必要な酸素の量を考える



質量で考えるよりも
数を数えた方がはやく

粒子の数で考える

有用性の実感

学習活動 (5)

学習活動 (4)

学習活動 (3)

学習活動 (2)

学習活動 (1)

授業実践に向けて

① 教具・実験

既存の実験・教具を参考にして、授業内容に適した実験・教具を準備する。

② 評価・検証方法

理解度の評価法の検討。テスト等の点数以外の評価をどのようにするか。

自分自身の未来に期待する子どもの育成

～個の願いを真摯に受け止め支援・実践する活動を通して～

学習デザインコース 平石友吏江

現在の学校現場

- ・行事や時間に追われる毎日。
- ・教科学習定着のための取り組みの増加。
- ・教師との対話や子ども同士の密な対話の時間が取れない。
- ・子どもの多忙化。
- ・とことん追究する時間が取れない。

本校の児童の姿

- ・言われたことは真面目にコツコツする。
- ・新しいことに対し「よし、やってやろう。」という気持ちになれず、避ける傾向にある。
- ・自分から「何かをしたい。」「何かをしよう。」という気持ちはあまり見られない。
- ・新しい世界を知り、「自分を試してみたい。」「表現してみたい。」という児童が少ない。

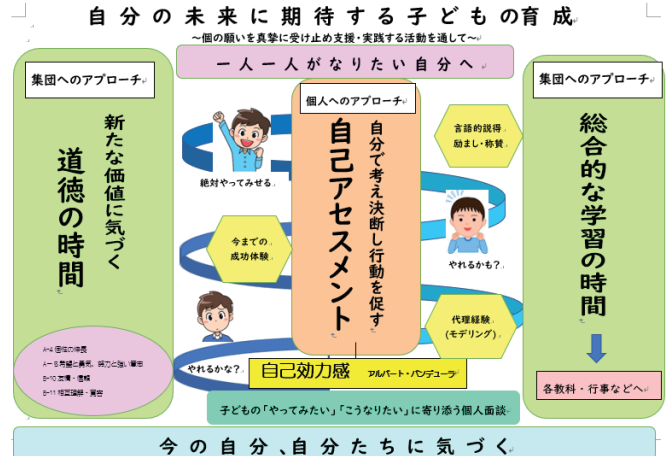
研究目的

子どもの「やってみたい・やってみよう」の気持ちに寄り添い、自己アセスメントを軸に一人一人が自分で考え決断する学びのプロセスをデザインする。

学びの道筋 アルバート・バンデュラ 1925



研究構想図



研究計画

	1学期	2学期
道徳 自分を見つめ、新しい価値に気づく時間	ゲストティーチャー 池田先生 ゲストティーチャー 大下先生 ロレンゾの友達 B-10 友誼(理解) 銀のしよくだい B-11 相互理解・寛容	長嶋茂雄の人生は七転び八起き物語 A-5 勇気・決意 たからもの A-4 個性の伸長 フランコワとピエロ B-11 相互理解・寛容 知らない問の出来事 B-10 信頼関係
学活 個人面談	自己アセスメント(個人面談)	自己アセスメント(個人面談)
総合的な学習の時間 チャレンジ時間	総合での自己アセスメント(個人面談) やってみたいこんなこと ☆一人で☆ 自己を見つめ目標を立てる、計画、活動、交流、活動、発信	総合での自己アセスメント(個人面談) やってみたいこんなこと ☆クラスで☆ クラスを見つめ目標を立てる、研究計画、活動、発信

検証方法

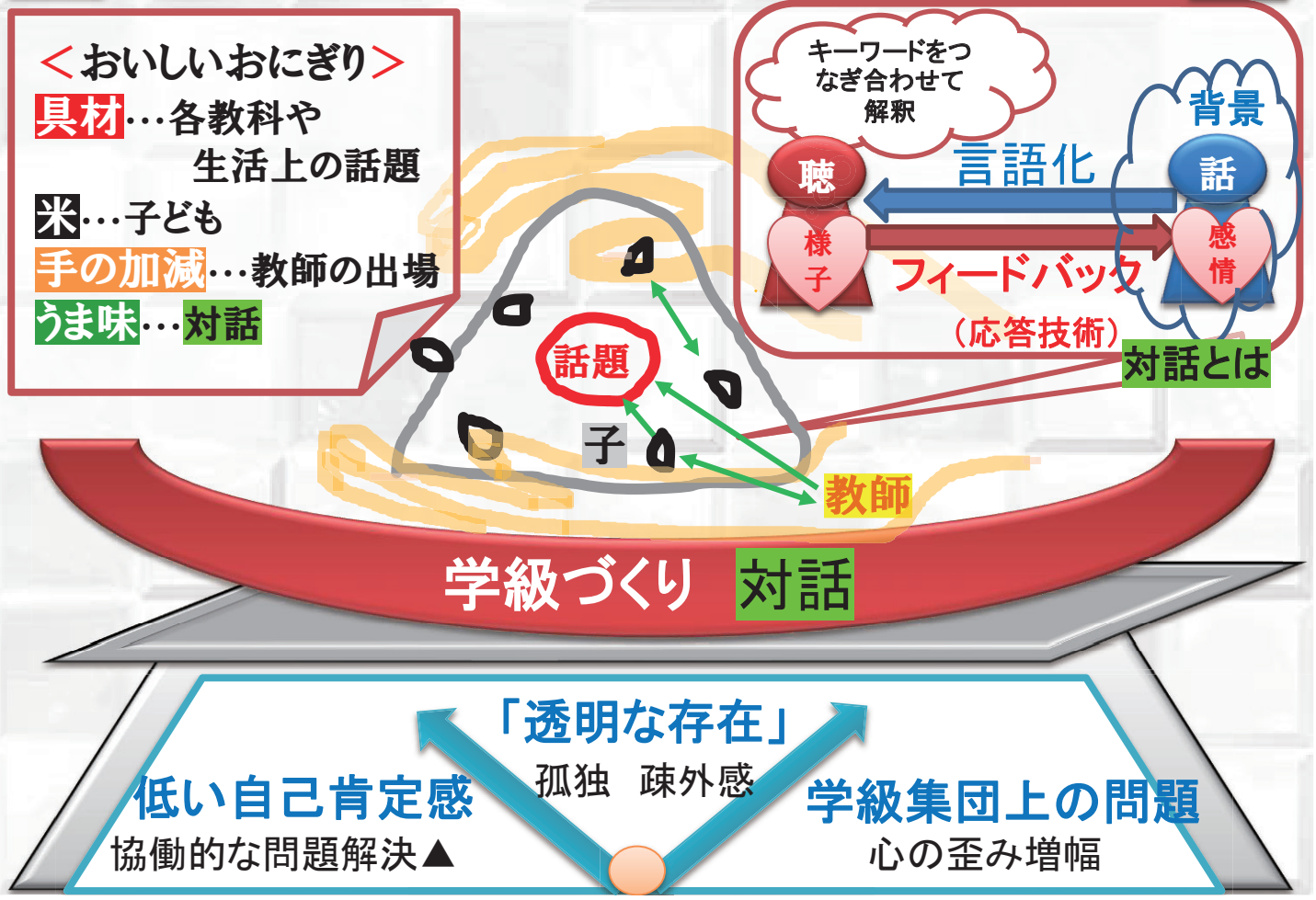
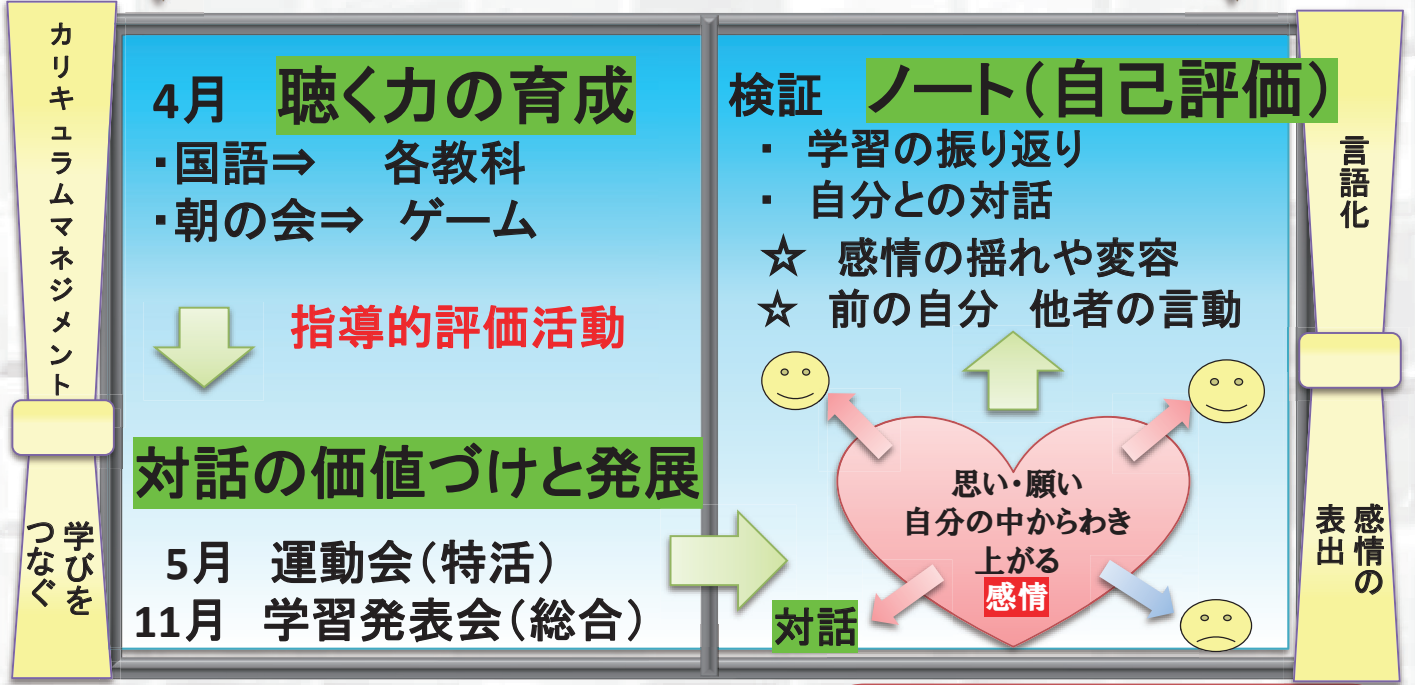
- ①自己アセスメント
 - 児童によるポートフォリオ
 - ・今の自分を見つめる
 - ・道徳・総合的な学習の時間を通しての個々の面談(1回目5月 2回目9月 3回目10月)
 - (総合的な学習の時間についての面談は随時行う)
 - ・目標設定
 - ・活動記録
 - ・振り返り
 - ・自己評価
- ②アンケート
 - 個人と学級の変化

一人一人が自己存在感をもち、互いに尊重し合う学級集団づくり

学習デザインコース

～対話における言語活動を通して～

藤田 真理子



① 研究の背景

一学校実習 I での学び一

自分なりの読みを持ち

活き活きと学ぶ姿

生徒と教師が
一緒になって学ぶ姿



新学習指導要領では…？

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

学ぶ姿

視点の転換！！

主体的・対話的で深い学び



② 研究の目的

主体性こそ重要！

「人間は、その人がかわるのを助けることはできても、かえることはできないのです。当の人間がその気にならないかぎり、外から強制的にかえることはできません。(P70)」



教科を通して

主体的に

教科

学ぶ姿

生き方

「主体的な生き方」を培う

主体的に学ぶ生徒の育成を目指して

～高等学校国語科古典Bの実践より～

学習デザインコース 奥澤敦子

③ 研究の方法

主体性を引き出す2つの鍵

- 1: 教材の本質理解・学ぶ価値
- 2: 課題を「自分ごと」に捉える



⑤ 学校実習 II

—生徒の実態把握を踏まえながら—
・実力はどれほど…？ ・今、足りない力は…？
・何に興味があるの…？ 等

自分なりの本気の読みを引き出す単元作り

- ・1学期…「竹取物語」・「伊勢物語」
- ・2学期…「蜻蛉日記」・「更級日記」

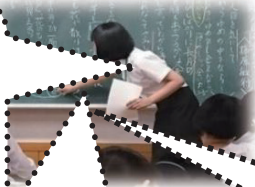
④ 学校実習 I

学び多き1ヶ月！

★自分の頭で考え、自分で気付けるような仕掛けづくり

1: 良い問い

担当した3クラスは、1時間1時間ワークシートを変更。生徒の反応を見ながら問いを選別し直し、授業改善。



2: 課題提示

複数の教材(同ジャンル)を扱う。それらを比較する中で、生徒たちが自然と類似点や相違点に、気付けるように。

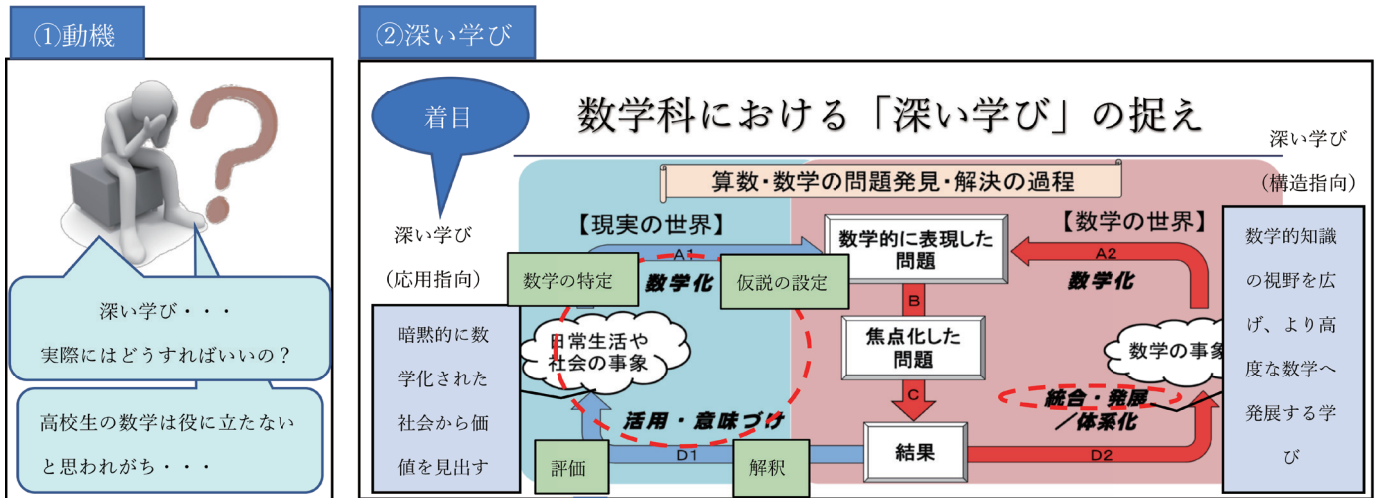
3: 単元構成

基本事項を押さえるべき場面、自由な発想を引き出す場面等…
×11ハリのある1つの単元を通して考えが構築されていく。



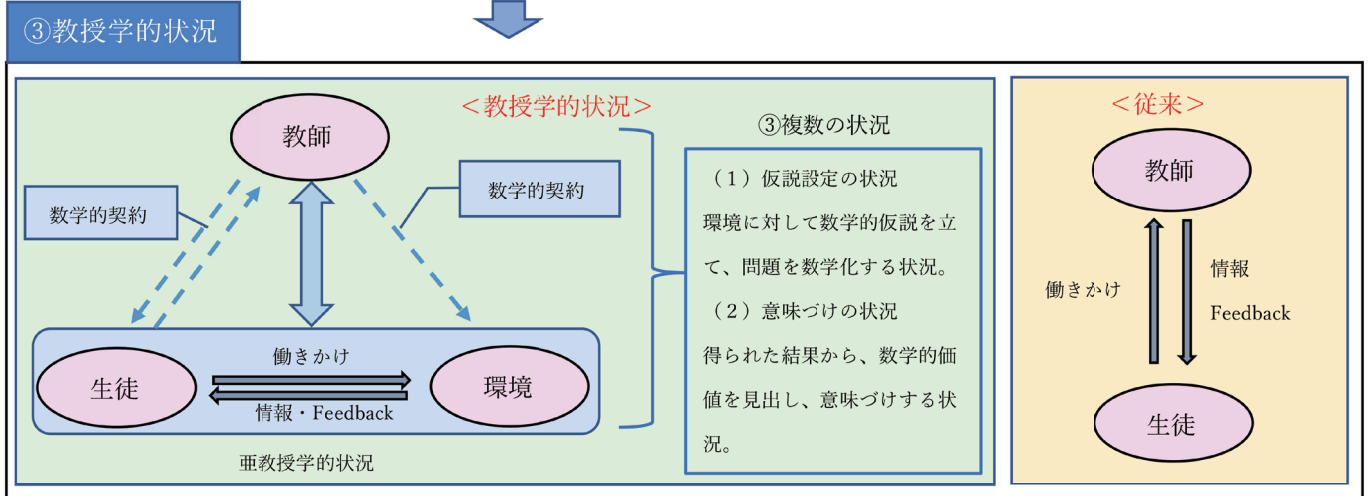
数学科における深い学びを促す教授学的状況のデザイン

学習デザインコース 中川幸樹



単に日常に絡めても「深い学び」にはならない！

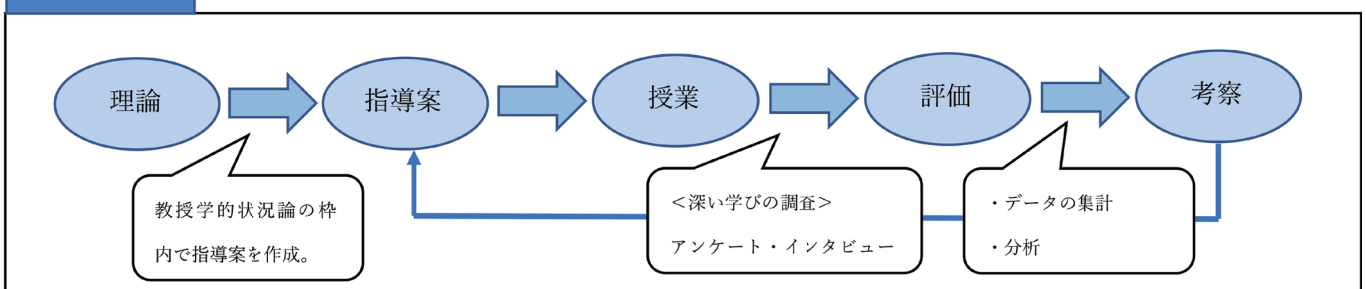
よりリアルな状況に生徒をおき主体性を引き出すことが重要！



④研究目的

本研究は、教授学的状況論の考えを適用した状況を、応用指向の学びの場でデザインする。その結果、生徒に「深い学び」が促されたかを検証することを目的とする。

⑤研究方法



国語科における子どもの見方・考え方を引き出す授業 ～説明文を中心に～

学習デザインコース 中出涼菜

研究の背景

学校実習 I

研究テーマ【子どもの本音を引き出す発問】

「発問やしかけ」で
変容する子どもの姿

☆変容する子どもの姿をもっと見たい！

☆本音ってどういうことかな？

☆どんなしかけをすれば引き出せるかな？
どういさせるかな？

笑顔 驚いた顔 考える顔
ひらめいた顔

本音＝子どもがもともと
持っている見方・考え方

発問 板書 教具

引き出したい子どもの見方・考え方とは？

- ① これまでの考え・体験（もともと持っている見方・考え方）
- ② ①をもとにした新しい視点（新しい見方・考え方）

どのようにして設定するのか？



具体的な授業をイメージしてみる

- ☆学年最初の単元
- ☆3年生『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』
- ☆3年生で一番はじめの説明文
- ☆『言葉で遊ぼう』→説明文の簡単な読み方を学ぶ
- ☆2年生までは説明文の読み方をしっかりと学んだわけではないため、これらの教材ではじめて説明文について学ぶとも言える
- ☆『こまを楽しむ』→『言葉で遊ぼう』で学んだことをいかして読む
- ☆1.2年生で説明文に触れてきている

もともと持っている見方・考え方

新しい見方・考え方

	題材	視点															
		自由(わけ)	順序	時間を表す言葉	だれが、何を、 しかた	分かりやすい説明の まとまり	文章に含 め、写真	段落とまとまり	問いと答え	説明の中心になるこ とと文	わかりやすい文章	例	考えの進め方	段落どうしのつなが り	資料の読み取り	自分の考えをもつ	
第一学年	たんぼのちえ【読む】	○	○														○
	どうぶつ園のじゅうい【読む】		○	○	○												○
	しかけカードの作り方【読む】 おもちゃの作り方【書く】		○			○	○	○									○
第三学年	言葉で遊ぼう こまを楽しむ【読む】							○	○	○							○
	すがたをかえる大豆【読む】 食べ物のみつづを教え ます【書く】								○	○	○	○	○				○
	ありの行列【読む】 しりょうから分かる、 小学生のこと【話す・ 聞く】									○	○						○

研究方法

- 導入→もともと持っている見方・考え方を引き出す
展開→新たな見方・考え方を引き出す
終末→変容を自覚させる

今後の研究

- 論文や先行研究→効果的な発問を学ぶ
- 授業観察→効果的な発問の共通点を調べる
- 指導案作成

検証方法

- 1時間ごとのふりかえりシート
- 単元のはじめとおわりに研究テーマに基づいたアンケート実施
- 発話記録 (TC) ○ビデオ記録

